

# 女性教職員活躍推進だより

第11号 令和6年7月31日 教育庁職員課

☆☆ 女性管理職ロールモデル紹介 ☆☆  
南相馬市立太田小学校長

青田 雅子 さん

青田先生は、今年4月から新任校長として、南相馬市立太田小学校に着任されました。



職員課主幹兼副課長  
渡辺隆博が話を伺いました！！

Q:これまでの経歴を教えてください。

郡山市立薫小学校からスタートしました。その後、二本松市立安達太良小学校、福島大学附属小学校で勤めました。附属小学校の後は、2回目の二本松市立安達太良小学校、相馬市立桜丘小学校に勤務しました。福島大学附属小学校時代には、担任をしながら福島大学の夜間大学院に2年間通い、心理学を学んだり、研究教科であった生活科についての研究を深めたりしました。桜丘小学校では、理科のコアティーチャーを務めました。

教頭に昇任してからは、新地町立駒ヶ嶺小学校に2年間、相馬市教育委員会課長補佐兼指導主事として3年間勤務し、本年度、新任校長として、南相馬市立太田小学校に着任しました。



Q:管理職のロールモデルはいらっしゃいましたか。 Q:教頭時代にワーク・ライフ・バランスで工夫した点がありますか

初任校と2校目の学校が女性の教頭先生で、娘のように温かく接して下さる方でした。「今日はどうだった?」「遅くまで残っているけど、どうしたの?」と、たくさん話や悩みを聞いてくださり、「私だったらこうするよ。」とアドバイスをいただいていた。また、勤務した学校の校長先生方は、とても視野が広く、様々な視点から御指導をいただきました。教育や学校運営についての視野を広げられました。

Q:ミドルリーダーの経験はありますか。

相馬市立桜丘小学校で、研修主任を3年間、教務主任を1年間務めました。様々な先生方の多様な考えをまとめることや、人にわかりやすく説明することの大切さを学びました。学校全体や先生方の動きを見ながら、やるべき仕事を、早め早めに、計画的にされる先生方や、しなやかに動く先生方の仕事ぶりがとても参考になりました。また、教務主任の時は、教頭先生の隣で、教頭職としての心構えや様々な対応について教えていただき、とても勉強になりました。

Q:昇任考査を受験したきっかけを教えてください。

桜丘小学校で勤務していた時の校長先生に声をかけていただきました。初めは、子育て等もあり、「本当にできるのか…」と不安でした。しかし、「誰かがやらなければいけないし、誰にでもできる仕事でもない。タイミングというものもある。」と強く背中を押していただき、昇任考査を受けようと決心しました。

家庭もあったので、「週末は、仕事をしないような日を絶対設けよう。」と自分で決めて仕事をしました。見通しをもって段取りよく仕事をするために、TO DO リストを作成して一つ一つ仕事に取り組んでいきました。

毎週末、必ずとはいきませんでしたが、家族と過ごせる時間を週末に確保したことで、自分のリフレッシュにもつながりました。

**Q: 教頭職のやりがいはどう感じていましたか。**

たくさんの文書と情報が教頭にはあがってきます。それらをどのように優先順位を付けて取り組んでいくかが、教頭としての醍醐味かなと感じています。

また、教頭は、職員室の担任とよくいられています。先生方の悩みに寄り添いながら、一緒に考えて、良い方向に子どもたちが変わったり、「できそうです。」と先生方の表情が明るくなったりしたときに、やりがいを感じました。



**Q: 教頭職で大変だったことはありましたか。**

私が教頭となった年は、水害が起きた時でした。新地町内の川も氾濫し、断水が起きるなど、即時の対応も求められることもあり、大変でした。水害が終わると、新型コロナウイルス感染症が流行し始め、感染症対策が必要となってきました。非常災害対応と感染症対策が重なり大変でしたが、学校を管理する立場として貴重な経験となりました。

**Q: 校長職のやりがいをどのように感じていますか。**

学校運営に対して様々な決定をくだす立場であり、スピード感をもって「子どものため、先生方のため」改善にあたることができるところがやりがいだと感じています。これは他には変えられないと思っています。特に、先生方の経験年数や立場に寄り添って相談にのり、先生方や子どもたちが前向きに取り組んでいる姿が見えるとうれしくなります。「これどうしたらいいですか。」「授業のことを相談してもいいですか。」と先生方の相談を受け、一緒に話している時間がとても楽しいです。

**Q: 女性教職員の皆さんに  
メッセージをお願いします。**

管理職になると、見る世界が変わり、視野がとて広くなります。

家庭、仕事と二刀流、三刀流の女性教職員の方も多いかと思います。その手際の良さや段取りの良さ、包容力は、管理職の仕事にたくさん生かせると思います。だから、尻込みせずにチャレンジすることも大切だと感じます。管理職になったからといって決して一人ではありません。協力してくれる同僚がいます。管理職の仲間もいます。県内の学校現場はみなさんの努力で働きやすい職場にかわってきています。ぜひ管理職のやりがいを求めて、歩み出してみてください。



青田雅子先生、ありがとうございました。

次回の女性教職員活躍推進だよりの発行は、年明け1月下旬頃を予定しています。今後も、福島県で働く女性教職員の活躍を伝えていきたいと思っています。よろしくお願いします。

～女性教職員活躍推進だよりの発行に当たって～

福島県教育委員会は、女性が職場においてその力を発揮できるよう、「女性教職員活躍推進プラン」を策定し、教職員のニーズに即した女性活躍のための対策を計画的に推進します。また、男女共同参画の実現に向けて、人事の公平性・公正性を確保しつつ、女性教職員の管理職への登用に努めることで、令和7年度までに、女性管理職の割合を教頭・副校長で15%、校長で13%とすることを目標としています。